

厚生文教委員会報告書

令和2年10月29日

備前市議会議長 守井秀龍 殿

委員長 中西裕康

令和2年10月29日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	調査結果	備 考
1 教育行政についての調査研究 ① 中学校統廃合について	継続調査	—

<委員派遣>

- 第三の居場所について
- プレーパークについて
- 西鶴山学童保育について

<報告事項>

- 岡山県知事選挙について（市民課）
- 野谷坑廃水処理場改修工事の状況等について（環境課）
- 旧ヘルスパ日生の活用に係るサウンディング型市場調査結果報告について（保健課）
- のら猫不妊去勢手術事業クラウドファンディングについて（保健課）
- 国民健康保険税の見直しについて（保健課）
- 備前市高齢者保健福祉計画、備前市第8期介護保険事業計画の策定状況について（介護福祉課）
- 第6期備前市障がい福祉計画、第2期備前市障がい児福祉計画の策定について（社会福祉課）
- 備前市社会福祉協議会の貸付制度に係る特例貸付の延長について（社会福祉課）
- 子ども応援月間について（子育て支援課）
- 地域医療に係る講演会の開催について（地域福祉連携課長）

- 令和2年度金婚式の開催について（地域福祉連携課）
- リモート面会の進捗状況について（市立病院）
- インフルエンザ予防接種の状況について（市立病院）
- 伊里小学校プール改修に係るプール材処分費の比較について（教育振興課）
- コロナ禍における学校の対応について（学校教育課）
- 保育園、認定こども園の入園保留数及び待機児童数について（幼児教育課）
- 熊沢蕃山顕彰事業の進捗状況について（文化振興課）
- 備前市立図書館整備の進捗状況について（社会教育課）
- 各種イベント・行事について（社会教育課）
- 令和元年度児童・生徒の問題行動等調査結果について（学校教育課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
委員派遣	2
報告事項	2
閉会中の継続調査事件	21
1. 教育行政について	21
閉会	33

厚生文教委員会記録

招集日時	令和2年10月29日（木）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時30分	開会　～	午後0時15分	閉会
場所・形態	委員会室	閉会中の開催		
出席委員	委員長	中西裕康	副委員長	西上徳一
	委員	立川　茂		星野和也
		森本洋子		青山孝樹
		藪内　靖		
欠席委員		なし		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	守井秀龍		
傍聴者	議員	掛谷　繁		
	報道関係	なし		
	一般傍聴	なし		
説明員	市民生活部長	藤田政宣	市民課長	杉田和也
	環境課長	久保山仁也		
	保健福祉部長 兼 福祉事務所長	眞野なぎさ	保健課長	森　優
	介護福祉課長	今脇典子	社会福祉課長	行正英仁
	子育て支援課長	中野智子	地域福祉連携課長	江見清人
	教育部長	田原義大	教育振興課長	大岩伸喜
	学校教育課長	岩井典昭	幼児教育課長	波多野靖成
	文化振興課長	畑下昌代	社会教育課長	竹林幸作
	病院総括事務長 兼 日生病院事務長	濱山一泰	備前病院事務長 兼 さつき苑事務長	石原史章
	吉永病院事務長	尾崎嘉代		
審査記録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○中西委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は7名でございます。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

本日の進め方についてですが、まず市民生活部、保健福祉部、市立病院から先に報告事項をお受けし、質疑を行います。その後、教育部の説明員と交代を行い、報告事項をお受けした後、レジュメ記載のとおり、教育行政についての調査研究を行います。

なお、委員会閉会后には、試験的なZ o o m会議の開催と委員会視察を予定しておりますので、お含みおきください。

***** 委員派遣 *****

それでは、議事に先立ち、委員会派遣についてお諮りをしておきたいと思っております。

本日は、委員会閉会后、午後から第三の居場所、プレーパーク、西鶴山学童保育へ委員会視察に伺いたいと存じますが、委員全員を派遣することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。それでは、そのように決定し、委員会閉会后に議長に対し委員派遣を要求します。

なお、視察は議会公用車で行うこととしますので、御承知おきください。

委員会の進行状況にもよりますが、午後1時には市役所を出発する予定としております。

それでは、議事に入ります。

***** 報告事項 *****

執行部より順次報告を願います。

○杉田市民課長 令和2年10月25日執行の岡山県知事選挙の結果について御報告いたします。

お手元の資料を御覧ください。

まず、投票結果については、区分ごとに上段が今回執行分で、下段が前回の平成28年10月23日執行の岡山県知事選挙の結果となります。

投票率は、全体で今回が41.76%となり、前回、4年前の41.27%より0.49%、僅かですが、上回りました。

開票結果につきましては、森脇候補は1,259票、伊原木候補が1万758票、得票総数は1万2,017票でした。

なお、無効投票が91票ありましたので、投票総数は、1万2,108票で、投票者総数と同数でございました。

○久保山環境課長 環境課から1点御報告いたします。

今年度から、野谷坑廃水処理場改修工事を実施する段取りで進めておりますが、現在の状況等

を報告させていただきます。

現在、入札告示を10月20日にしており、今後の流れとしては、11月17日に開札、11月20日に落札者が決定する予定で、その後、落札者と仮契約の流れになります。

本工事は、1億5,000万円以上の予定価格となり、議会の議決を要する案件となります。この工事は、継続費を組んでおり、令和2年度から令和6年度までの期間で、予算ベースで総額14億7,200万円の予算となっております。

つきましては、11月定例議会の追加議案として提案したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○森保健課長 保健課から3件御報告いたします。

まず、7月と9月の厚生文教委員会で御報告いたしました旧ヘルスパ日生の活用に向けて民間事業者から意見、提案を求めるサウンディング型市場調査について、結果を御報告いたします。

お手元の資料を御覧ください。

8月3日に本調査の実施についてホームページにて公表し、7事業者の参加希望をいただき、最終的には4事業者の御意見を聞かせていただきました。事業手法、事業に対するアイデア等、それから費用負担等についてまとめております。

事業手法については、様々な手法の提案がありました。

事業に対するアイデア等につきましては、2階部分を活用したデイサービス事業の実施、それからシーサイドのランニングコースの拠点としての活用、公共交通と連携した利用者増の仕組み等、様々な御意見をいただきました。

費用負担等につきましては、市との協議により決めていきたいとのことでした。

また、運営期間につきましては、できる限り長期間とすることで、事業者として人材育成や運営計画を立てやすいとの御意見をいただきました。

これらの御意見を参考に事業実施や有効活用に向けた事業方式や運営方法等について、今後総合的に判断していきたいと思っております。

次に、2件目、9月の厚生文教委員会で委員の皆様にお声がけ等御協力についてお願いいたしました、野良猫不妊去勢手術事業クラウドファンディングについて御報告いたします。

100万円を目標に7月20日から10月17日の期間で募集いたしまして、最終的に101万4,700円をいただくことができたことを御報告いたします。御協力いただきまして、どうもありがとうございました。

次に3件目、国民健康保険税の見直しについてでございます。

個人所得課税の見直しを踏まえた国民健康保険の見直しについてでございますが、個人所得課税の見直しにつきましては、平成30年度の税制改正で令和3年1月1日より、給与所得控除と公的年金等控除からどのような所得にも適用される基礎控除へ10万円の振替等が行われることになりました。これを踏まえて、今回の国保税の見直しにつきましては、個人所得税の見直しに

よる10万円の振替が行われることにより、被保険者が保険税軽減判定から外れ、負担増になる可能性があることに注視いたしまして、意図せざる不利益が生じないように、被保険者に係る所得等について見直しを行うものです。

配付しております資料を御覧ください。

概要といたしましては、国民健康保険税の減額の対象となる軽減判定所得の算定において、基礎控除額相当分の基準を33万円から43万円に引き上げるとともに、同世帯の被保険者のうち一定の給与所得者と公的年金等の支給を受ける者の合計から1を減じた数に10万円を乗じて得た金額を加えるものです。

この改正につきましては、11月定例会において、国民健康保険税の一部を改正する条例として、所管であります税務課から提案させていただく予定としております。

○今脇介護福祉課長 介護福祉課から備前市高齢者保健福祉計画、備前市第8期介護保険事業計画の策定状況について御報告をいたします。

今年度、この計画を令和3年度から令和5年度までの3年間を計画期間として策定をしております。

介護保険の事業計画は、介護保険法第117条に3年を1期として市町村が行う介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施に関する計画を策定するよう義務づけられています。

高齢者保健福祉計画は、老人福祉法第20条の8第7項に介護保険事業計画と一体で策定するものとされています。

資料を配付しておりますので、それを御覧いただきながらお聞きください。A3の縦読みと横読みが一緒になっているものです。

資料にあります策定スケジュールに記載しておりますが、計画策定の基礎資料とするため、昨年度市内の要介護認定者を除いた65歳以上の高齢者へのニーズ調査や、認定を受けている人への在宅介護、実態調査などを行いました。

策定委員会は、今年度は、これまでに2回開催し、骨子案、素案の審議を進めています。

第8期の基本的な考え方ですけれども、国からは第7期での目標や具体的な施策を踏まえ、2025年を目指した地域包括ケアシステムの整備、さらに現役世代が急減する2040年の双方を念頭に、高齢者人口や介護サービスのニーズを中・長期的に見据えて、資料の真ん中にありますとおり7つの基本指針が示されております。

また、昨年度取りました各アンケート調査から、備前市の現状把握を行って、資料の真ん中の下の部分になりますが、市の課題が上げられています。

これらの方針、課題を踏まえて、市の総合計画と整合性を図り、第8期の計画を策定していきます。

今後は、サービス料を推計し、保険料の算定を行っていきます。1月には、パブリックコメントを行い、市民の方の幅広い意見をお聞きして、計画書を完成していく予定としております。

○行正社会福祉課長 社会福祉課から2件報告させていただきます。

まず、障がい福祉計画と障がい児福祉計画の策定について報告させていただきます。

お手元にお配りしています、第6期備前市障がい福祉計画、第2期備前市障がい児福祉計画の策定についてを御覧ください。

障害のある人が地域で安心して生活できる社会の実現を目指し、障害福祉サービスの見込み量や、その確保策等を定めた第5期備前市障がい福祉計画、第1期備前市障がい児福祉計画の計画期間が今年度で満了することから、新たに第6期備前市障がい福祉計画、第2期備前市障がい児福祉計画を策定いたします。

本計画は、国が定めます基本方針に基づいて定めることが義務づけられている、障害者総合支援法上の市町村障害福祉計画、及び児童福祉法上の市町村障害児福祉計画であり、障害者基本法に基づいて策定する、備前市障がい者計画の生活支援分野に関する実施計画に位置づけられています。計画期間は、令和3年度から令和5年度までの3年間です。

本計画は、国が基本指針において定める次の7点の基本理念を踏まえて策定いたします。

1点目、障害者等の自己決定の尊重と意思決定の支援、2点目、市町村を基本とした身近な実施主体と障害種別によらない一元的な障害福祉サービスの実施等、3点目、入所等から地域生活への移行、地域生活の継続の支援、就労支援等の課題に対応したサービス提供体制の整備、4点目、地域共生社会の実現に向けた取組、5点目、障害児の健やかな育成のための発達支援、6点目、障害福祉人材の確保、7点目、障害者の社会参加を支える取組、以上の7点となります。

今後のスケジュールといたしましては、12月までに策定委員会を複数回開催し、計画案を決定の上、来年1月に1か月間パブリックコメントを実施し、その後、策定委員会で最終案を確認の上、3月には市長に答申し、公表する予定としております。

次に、社会福祉協議会が実施しております、緊急小口資金、総合支援資金の貸付制度に係る特例貸付けの延長について報告させていただきます。

この緊急小口資金、総合支援資金の貸付制度は、低所得世帯に対する生活資金の貸付けで、従来から社会福祉協議会が実施しているところではありますが、新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業で生活資金にお困りの方が増える中、令和2年3月末から貸付要件を緩和し、貸付上限額を拡大するなどの特例を設けた貸付けを実施しております。

この特例は、当初6月末までの期限とされていましたが、9月末まで延長され、このたびさらに12月末まで延長されております。

また、備前市社会福祉協議会に本制度に係る貸付件数を確認したところ、緊急小口資金と総合支援資金の両貸付制度の重複や延長貸付けも含めると、9月末現在で申請件数が219件、このうち貸付決定件数は175件です。実人数としましては、40名程度となっております。

○中野子育て支援課長 子育て支援課から、子ども応援月間について御報告いたします。

お手元の資料を御覧ください。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、例年11月に開催していましたが、子ども応援フェスタを中止としました。その代替りとして、11月を子ども応援月間とし、市役所本庁にて子育て支援団体等の活動啓発のブースを設置いたします。

内容、スケジュールにつきましては、資料にあります表のとおりでございます。

開催に当たっては、感染予防のため、スタッフ、来場者の方にマスクの着用をお願いし、発熱がある人や風邪の症状がある人は参加を控えていただくように御案内をして、感染予防に努めたいと思っております。

○江見地域福祉連携課長 地域福祉連携課より御報告させていただきます。

お手元に資料としてチラシをつけておりますが、講演会のお知らせでございます。

この講演会は、東備西播定住自立圏形成推進協議会の事業の中で行われるもので、来る11月25日に岡山大学学長の槇野博史先生を講師としてお迎えして、地域医療を切り口に御講演をいただく予定としております。

それから、1点追加で報告をさせていただきます。

広報等でもお知らせをしておりますけれども、今年度、市民ふれあい福祉まつりの中止に伴いまして、その中で行われておりました金婚の表彰を実施をしたいと考えております。

日時につきましては、11月27日、10時より、この市役所の3階の大会議室で行う予定としております。人数を限らせた形で実施をいたします。議会からは議長を来賓として御案内をさせていただいているところでございます。

○濱山病院総括事務長 病院事業から2件御報告させていただきます。

1件目といたしまして、3病院並びにさつき苑のリモート面会の進捗状況について御報告させていただきます。

まず、備前病院では、各病棟から順次Wi-Fi整備を進めており、近日中にその整備も完了する予定です。環境が整い次第、御家族の方へ予約制の御案内を行い、実施予定としています。

次に、日生病院では、予約制により入院患者さんの御家族を対象に実施しています。面会時間といたしましては、平日の午後2時から午後4時の間とし、タブレットを入院患者さんの病室まで持参し、御家族は1階の部屋においてリモート面会を行っています。

吉永病院では、感染症予防対策としているほかの整備と併せて実施予定としています。

さつき苑では、予約制により入所者の御家族を対象に実施しています。面会時間といたしましては、平日の午前10時からの1時間と、午後2時30分からの1時間30分とし、タブレットを用い、入所者の方には各階の食堂フロアにおいて、御家族の方においては1階の面談スペースにおいてリモート面会を行っております。

2件目といたしまして、3病院におけるインフルエンザ予防接種の接種状況について御報告させていただきます。

10月23日時点の接種状況とはなりますが、備前病院254人、日生病院223人、吉永病

院800人で、3病院の合計では1,277人となります。

○中西委員長 報告が終わりました。

御説明いただいた報告事項について、質疑がある方の発言を許可いたします。

○森本委員 知事選なんですけど、期日前投票の投票率が分かれば教えてください。

○杉田市民課長 備前地区が13.22%、日生地区が20.79%、吉永地区が25.03%、備前市全体では16.19%でございました。

○森本委員 前回と比べてどうだったんでしょうか。

○杉田市民課長 前回よりも上昇しております。

○森本委員 もしパーセントが分かれば教えてください。

○杉田市民課長 前回の期日前投票の投票率は、全体で13.19%、今回の知事選が16.19%でございました。

○森本委員 サウンディング型の市場調査の結果の報告についてなんですけど、少し教えていただきたいのは、事業に対するアイデア等の中で利用増を図るための公共交通の活用って書いてあるんですけど、具体的に分かるんならもう少し詳しく説明をお願いしたいと思うんですけども。

○森保健課長 これにつきましては、事業者のほうが、市が路線バスなんかを運営しているということで、そこと協議をしながら臨時便等をお願いして連携を取りながら集客増に結びつけたいというような御意見でございました。その中でも、特に介護施設等に入所されている方が毎日同じようなパターンの生活なので、月に1度とか2度とかというようなことで外へ出る機会の提供なんかで利用者増を図りたいというような御提案をいただいております。

○森本委員 以前の話であったら、企業の研修とかもあったんですけど、そういう御提案は一切なかったということなんですか。

○森保健課長 はい、今回のサウンディング調査の中ではございませんでした。

○青山委員 同じサウンディング調査なんですけど、この中の(3)の費用負担等のところで、周辺施設も含めた運営が必要とあるんですけど、アイデアの中を見るとシーサイドランニングコースの拠点としての活用というのが周辺のことかなと思うんですけど、ほかに何か、例えば体育施設とかそういったようなもの、グラウンドとの関連なんかというのはなかったですか。

○森保健課長 周辺の施設も含めた運営が必要ということなんですけど、隣の温水プールであるとか野球場であるとかテニスであるとかグラウンドゴルフ場とかが隣接してんですけど、当然その施設を活用した事業を実施することで、その費用、収入増というようなことも必要だというようなことを言われておりました。

○青山委員 以前は、食と運動と休養というふうな形での温水プールや温浴施設ということだったんですけど、その中で合宿とかというふうなことにも活用ということがありましたけど、そういうふうなアイデアは出ましたか。

○森保健課長 はい、当然その合宿であるとかということも活用の中で意見も出ました。野球場があるので、近隣の関西圏も含めて、そういうことも実施すれば収入につながるのではないかと
というような御意見はいただいております。

○西上副委員長 私もこのことなんですけれども、3病院との連携というの、以前の委員会で話したことがあるようなんですけれども、3病院との連携というのはそのアイデアの中には入っておられなかったのでしょうか。

○森保健課長 はい、今回の調査では出てきませんでした。

○西上副委員長 担当課から、今後アイデアを言っていくようなことはないのでしょうか。

○森保健課長 はい、今後、今回のこの調査結果も踏まえて、市としても、事業実施を含めて運営方法等について検討していきたいと思っております。

○星野委員 同じところで、総合的に判断し事業実施について検討していきますとなっていますが、今後どのように進めていかれるのでしょうか。

○森保健課長 今後、今回の調査を踏まえるのは当然なんですけど、市としての考え方も含めて、市民の健康に寄与するような事業等ができるのかどうかということも踏まえながら、事業実施について考えていきたいと思っております。

○星野委員 事業方法とか事業者の決定はどのような形で進めていかれるのでしょうか。

○森保健課長 まだ決まってはおりませんが、担当としては、公募等をしていくようになるんじゃないかと考えております。

○森本委員 公募してということなんですけど、タイムスケジュール的にはどうなっているのでしょうか。

○森保健課長 今年度中ぐらいをめどに公募なりをしていって、うちの条件に合う事業者がおれば、そのあたりで進めていきたいと思っております。

○中西委員長 ほかにごさいませぬでしょうか。

○立川委員 備前市の高齢者保健福祉計画で御説明があったんですが、ニーズについて、65歳以上の方に聞かれたということで結果も出てるんですが、大体どういう基準で、どういう方、何名ぐらいから御意見を聴取されたのでしょうか。

○今脇介護福祉課長 この調査は、市内要介護認定者を除いた65歳以上の高齢者の方で、2,000人を対象でお願いをいたしました。回収数は1,257票ということで、回収率62.9%となっております。

○立川委員 その2,000人の抽出の条件というのは何かあったのでしょうか。

○今脇介護福祉課長 条件といたしましては、要支援を含めますけれども、65歳以上で要介護認定者を除いたということで、そこから無作為で抽出しております。

○立川委員 条件は分かりました。無作為でされたということで御理解しときます。ありがとうございます。

続きまして、インフルエンザの関係なんですが、病院の受診は1, 277という数字を今お聞きしましたが、どうなのでしょう、ちょっとインフルのワクチンが不足とか、いろんなことを言われているんですが、備前病院、日生病院、吉永病院の市立病院はインフルエンザのワクチンのストックは大丈夫なのでしょう。何人ぐらい見込んでおられるのでしょうか。

○濱山病院総括事務長 日生病院では、業者からは昨年と同じぐらいのワクチンの本数ということで、390本が入荷する予定でございます。ですが、800名ぐらいを予想しております。

○石原備前病院事務長 備前病院も同じく、例年どおりの予定としていまして、約1,200人分でございます。

○尾崎吉永病院事務長 吉永病院でも、業者からは例年どおりの入荷ということでお聞きはしていますが、例年どおりになりますと1,000人ちょっとぐらいの数だったんですが、もう今現在で800人來られている状態で、10月23日時点ではありますが、536人分の在庫がある状況です。今のところもう少し入荷の見込みはあるんですが、病院として最初は1,500人ぐらいかなと思って見込んでいたんですが、もう少し増えそうな感じには思っております。ワクチンが不足する可能性はあるんですが、取りあえず來られる方には接種させていただくようなことをさせていただいておりますので、最終的に不足になる可能性はちょっと懸念しているところではあります。

○立川委員 ありがとうございます。3,000ぐらいのストックがあるということなんですが、例年どおりのストックという解釈をしときます。

地域医療をお尋ねしたいんですが、医師会ほどの程度使われたかお聞きされていますか。といいますが、今は高齢者と子供さん、いわゆる弱者というのがほぼ終わった段階で、今からが本番になっていこうかと思うんですが、そういった情報を打合せはしておられますでしょうか。

○江見地域福祉連携課長 医師会のほうからは、例えばワクチンのストックが足りないとかそういった話はお聞きはしておりません。今後、足りないという話になれば、どのようなことが市としてできるかということではあるとは思いますが、話ができれば検討していきたいと考えております。

○立川委員 総合的に市立病院と医師会との連携というのはそちらの部署でやっておられると思うんですが、しっかり情報をつかんで、インフルエンザワクチンが足りないよとか、病院に行っただけできなかったよとか、町医者、クリニックでは足りないよ、予約もしてないというところも多々あるようにお聞きをしておりますので、その辺の市民ニーズをしっかりとよろしくお願いしたいと思います。これはお願いで終わります。ありがとうございました。

○藪内委員 ヘルスパに関してですが、いろんな意見が出ていまして、先ほど備前市の考えというか、ある程度の範囲に合うものをと。ある程度のラインはあるのでしょうか。

○森保健課長 市といたしましては、できるだけ支出はないような形で再開も運営もしたいというところで、公募をかける条件の中で費用面のことを重視いたしまして、事業内容についてはあ

ます。

説明員交代のため、暫時休憩いたします。

午前10時13分 休憩

午前10時30分 再開

○中西委員長 それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

これより教育部関係の報告をお受けしますので、執行部より順次報告を願います。

○大岩教育振興課長 9月定例会の厚生文教委員会で西上副委員長から資料要求のありました伊里小学校プール改修に係るプール材処分費について、調査結果を御報告させていただきます。

お配りしております資料を御覧ください。

この表は、FRPプールとステンレสปールを40年後あるいは50年後に解体する場合、現在の処分価格、買取り価格で試算したものでございます。処分数量が、FRPプール約6トンとステンレสปール約12トンで試算しております。

1行目の、設計業者から出された資料によりますと、FRP6トンで処分費が1万4,400円、ステンレสปール約12トンの買取り価格が60万円ということで、その差が61万4,400円ということでお聞きしております。

それから、近隣の買取り業者にお聞きしました、FRPがキロ60円当たりで処分費、それからステンレスが40円から50円でキロを買い取るということで、FRPの処分費が36万円、それにステンレスの買取りが48万円から60万円ということで、金額差が84万円から96万円となっております。

最後が、市の庁舎の解体の設計単価として数字がありましたので、それも参考にいたしました。立米当たり5,100円ということで、6トンに換算しますと8万7,414円が処分費としてかかります。それから、ステンレスの買取り価格が68万円と設計がありましたので、81万6,000円で買い取るということになりまして、その差額が90万3,414円という差額が出ております。

いずれにいたしましても、FRPの処分費とステンレスポールの処分費ということで、その差は100万円以内に収まるということでお聞きしております。

○岩井学校教育課長 学校教育課より、コロナ禍における学校の対応について報告させていただきます。

主に学校行事についての報告になりますが、まず修学旅行についてです。

修学旅行については、小学校、中学校の各校長会にて検討されていること、それから中学校は一律の決定を行いますが、小学校は各校にて判断をするということを前回報告させていただきました。

その後についてですが、中学校については、校長会が開かれ、学校教育課も交えた協議の結果、新型コロナウイルス感染症に対し先行きが不透明であること、それから安全・安心な状況で

はないことから中止を決定しました。

代わりになる行事についてですが、実施するかしないかも含めて各校で検討されました。実施しない学校もある中、実施する学校については、およそ10月末から11月中旬に倉敷方面に日帰りの予定と聞いております。

また、小学校においては、多くの学校が行き先を変更し、実施または実施予定となっております。

主な行き先は、倉敷、蒜山方面、山陰方面、四国方面で、1泊2日の日程と聞いております。

片上高等学校については、例年東京へ行っていますが、東京は難しいという見込みで、現在まだ検討中ということになります。

その他の行事で、学習発表会や合唱祭、文化祭、校外学習等の行事については、感染防止対策を講じて多くの学校が実施予定としております。御報告させていただきます。

○波多野幼児教育課長 幼児教育課から報告をさせていただきます。

A3横、カラーで資料を印刷してあると思いますが、保育園、認定こども園の入園保留数及び待機児童数を報告いたします。

この表は、あくまで入園希望者の第1希望園を掲載しております。今、第2希望、第3希望も全てお聞きしておりますので、園ごとの待機児童数は就園によって毎月変動いたしますので、この園別数字は外部への公開はお控えください。

10月1日現在で待機児童数は4月の19人から17人になりました。ただし、希望者によります入園の保留は84人であります。この入園保留者から国が示す待機児童除外に当たる内訳を緑色の数値のすぐ上に5段で書いておりますが、認可外保育施設に11人入園、伊部、日生、吉永の一時保育常時利用者が13人、この方々は待機児童対策の一環で預かり日数を月13日から16日に増やした方です。また、出産及び育児休業続行が25人、求職中の方でハローワークによります求職続行カードの提出をされてない方の14人を除外、また特定の園のみの希望の4人、合計64人を除外して17人を待機児童としたものでございます。

なお、3歳児が1名出ておりますが、この3歳児はゼロ歳児の入園保留に伴う特定の園のみの希望者ということでございます。ほかの香登こども園とかでありましたら入園できる方ではありません。

4月以降もゼロ歳児の入園申請が26名、1歳児が8名、2歳児が2名、計36名ありまして、毎月のように6か月になったゼロ歳児の入園希望者は後を絶たない状況であります。

なお、5月以降に新規入園を受け入れた方は、17名でございます。引き続き認可外保育や一時保育のあっせん、会計年度任用職員の募集を続け、解消に努めてまいりたいと思います。

この数字は11月に県に報告する予定でございます。

○畑下文化振興課長 熊沢蕃山顕彰会議について報告いたします。

先日、10月20日火曜日に開催されました第2回熊沢蕃山顕彰会議です。

議事内容につきましては、今年度の顕彰事業の進捗状況についてでございます。

まず、企画展、巡回展につきまして、7月1日から9月30日まで加子浦歴史文化館で行われておりました閑谷学校創学350年記念巡回展で、こちらについては、閑谷学校の教育史と併せまして熊沢蕃山を特集展示しておりました。76日間で延べ504人の来館者がございました。

それから、今後の予定になりますが、11月20日から22日の3日間で、熊沢蕃山顕彰保存会の主催によります熊沢蕃山先生没後330年記念展が備前市市民センターで開催されます。熊沢蕃山の生涯や実績をパネルや写真で紹介したり、熊沢蕃山に深く関わりのある人物の著書、掛け軸、写真等を展示する予定であります。

続きまして、11月28日土曜日、熊沢蕃山～方谷サミット in 閑谷学校実行委員会によります、蕃山～方谷サミット in 閑谷学校が閑谷学校のプレイホールで開催されます。元文部科学副大臣の小野晋也先生によります講演、備前市長、旧閑谷学校顕彰保存会の國友理事長、熊沢蕃山顕彰保存会の立花会長等の4名がパネラーとなり、パネルディスカッション等を行う予定でございます。

それから、閑谷学校創学350年記念事業で、12月12日土曜日に熊沢蕃山顕彰記念講演会を備前市教育委員会主催で開催いたします。場所は備前市市民センターで、内容は熊沢蕃山保存会の立花会長による基調講演、森熊男先生を含め3人をパネラーに迎え、パネルディスカッションを実施する予定です。

また、熊沢蕃山顕彰保存会より、蕃山先生没後330年記念誌「熊沢蕃山」を2,000部発行しまして、こちらにつきましては、保存会が11月に開催されます企画展等で配布されるということです。

それから、市の教育委員会で、蕃山先生の本を再版しております。8月末に1,300部発行いたしました。活用方法としては、小学校5、6年生には学級文庫として、小学校3、4年生には社会科の副読本として勉強していただくように依頼しております。このほか、学校教員や中学校の図書館、市立図書館、地区の公民館などに配布しております。

次に、絵本と紙芝居の募集についてでございます。

絵本、紙芝居の作品募集を7月末から行っており、当会議の時点では応募登録は、絵本が3件、紙芝居部門が2件の計5件となっておりますが、現時点では絵本部門が7件、紙芝居部門2件の計9件となっております。

それから、クラウドファンディングについてですが、10月1日から目標金額300万円で寄附募集を開始しております。ふるさと納税を活用したクラウドファンディングの運営を行っている、ふるさとチョイスのページで行っております。このプロジェクトを説明する上で蕃山を知ってもらうために計画しているこの事業の絵本とか紙芝居の募集等の説明、それから熊沢蕃山顕彰保存会の立花会長や、絵本、紙芝居の募集の審査員をお願いしている片山ひとみさんなど、この事業を応援していただいている方のメッセージをいただいて掲載しております。

それから、展示品の作成につきましては、掛け軸、自画像の複製、熊沢蕃山の年表や足跡などの展示用のパネルの作成を進めております。また、そのほか、地元にあります熊沢蕃山にまつわるものを紹介するようなものの作成を検討しております。

以上が今年度の進捗状況でございます。

来年度の事業計画につきまして、事務局から提案をいたしましたものにつきましては、先ほどの絵本、紙芝居募集作品の製本についてです。現在、作品募集を行っている作品についてですが、募集要項の中で最優秀賞をはじめとする受賞作品の中から市での出版等を検討しますと明記しております。審査結果、出版に値する内容であれば、各部門1作品ずつ作品化に向けて進めていく予定です。

また、「まんが熊沢蕃山」の改訂版制作の計画は、平成5年に、当時安曇川町、現在の高島市ですが、発行された漫画を備前市版に改訂し、民間の財団の助成を受けて作成する予定です。この漫画自体はすごく読みやすくて、熊沢蕃山を全く知らない人が読むのとして適しております。この作品に熊沢蕃山と備前市の関わりをクローズアップした短編漫画を付け加えて改訂版のものを作って、制作していこうと思っています。作者のさいわい徹先生と高島市の御協力が必須でありますので、現時点での漫画の権利関係を調査して、作者や高島市とも今連絡調整を行っております。

そのほか、委員さんから来年の事業計画についての提案について意見をいただきました。それにつきましては、備前市が進めている持続可能なまちづくりと教育のまち、両方のシンボリックな人だと思うので、備前市の方向性としても合うのではないかと。熊沢蕃山をその中に位置づければ、もっと存在がクローズアップされるのではないのでしょうか、例えば蕃山イズムとか。それから、この創学350年の年だけでなく、環境問題とかを捉えているので、SDGsというのは今後も行政の課題でありますので、関連をつけて考えていけばいいのではないかと。とか、備前学とかをつくるのはどうか。とか、備前緑陽高校の総合学習の時間に蕃山の研究を取り上げてもらうのはどうか。それから、地域学というか、小・中高合わせて備前のいいところを学んでいただくように進めていけばどうかなどの意見が出ました。

○中西委員長 課長、できれば今しゃべった中身を活字にして委員に後で配付をしていただければでしょうか。

○畑下文化振興課長 分かりました。

○中西委員長 項目も多かったのです。次回からまた報告をしていただくときには、そこまで詳しくなくてもよろしいですから、A41枚でも結構ですので、活字にしていただけたらと思います。よろしくをお願いします。

○竹林社会教育課長 社会教育課から2件御報告をさせていただきます。

まず、備前市立図書館整備についてでございます。

8月の委員会におきまして、今までの経緯及び現状等を御説明させていただいております。

本年度は、整備事業の調査業務を実施することとしております。そのための資料作成業務につきまして、提案業者を募集の上、8月21日に提案方式によるプレゼンテーションを審査を実施しております。その後、業者を決定いたしまして、現在、資料作成業務を実施中でございます。その他の検討資料等も並行して作成した後、タウンミーティング等も実施しながら整備方法の比較検討を行っていきたいと考えております。

次に、各種イベント行事等についてでございます。

例年実施しております、えびす駅伝競走大会は来年の2月11日木曜日で、こちらにつきましては実行委員会も開催しましたけれども、実施するという方向で現在準備を進めております。内容について、感染症対策のための若干コース変更、それから募集範囲は県内に限るといふようなところで現在準備を進めております。

次に、例年3月中旬に実施しておりました日生大橋マラソンについてでございます。こちらにつきましては、既に御承知のことかと思っておりますけれども、9月23日の実行委員会におきまして全国規模の大会であるといふようなところで、あとどうしても感染症対策が取れない場面が発生するといふようなところで中止という決定に至っております。

次に、こちらも例年実施しております、成人式についてでございます。

本年度は年明けの1月10日日曜日に開催予定としております。こちらにつきましても、例年とちょっと変更点等ございますけれども、事前に出席者も把握をさせていただくと、あと入場者につきましても、成人式を迎えた方のみに限らせていただくといふようなところで、あと感染症対策も取りながらといふところで考えております。

また、補足としまして、成人式に関係することなんですけれども、民法の改正によりまして、令和4年4月に成年年齢が18歳へ引き下げられることとなります。これに伴いまして、式典の開催方法について、各自治体におきまして検討がなされているところでございます。備前市では、先般の教育委員会会議でも御協議いただきましたが、令和4年度以降も現行どおり二十歳の方を対象に式典を実施していきたいと考えております。その理由としましては、18歳という年齢が多くの方が進学や就職等を控えた多忙な時期であるということ、また飲酒や喫煙の年齢が従前どおり二十歳で維持されるということなどが上げられます。なお、県内自治体でも同様の検討がなされているところですが、現時点で方向性を示している自治体につきましては、現行どおり二十歳を対象に式典を実施する予定と伺っております。

○岩井学校教育課長 報告事項の中に入っていないんですが、1件学校教育課より報告を追加したいと思っております。

令和元年度児童・生徒の問題行動等調査結果について御報告させていただきます。ただ、今年度県は市町村ごとの公表を控えるということですので、市のほうでも同様に具体的ないじめの認知件数、暴力行為の発生件数それから不登校の人数等の公表は控えさせていただきます。しかし、備前市の結果概要について報告をさせていただきたいと思っております。

まず、いじめについてです。認知件数は、小・中学校ともに減少しております。これは、前年度から未解消ケースを含め、事案発生時にはケースごとに報告を求め、市教委と学校が連絡を取り合いながら解消に至るまで丁寧に対応し、再発防止に努めてきた結果と考えております。また、解消状況については、小学校で低下が見られます。これは、解消の定義を徹底したこと、そのことにより厳密かつ丁寧に見取ることによるものと考えておりますが、このことにより再発の抑止につながり、認知件数の減少につながっていると考えています。

次に、暴力行為についてですが、発生件数は小・中学校ともに減少しており、落ち着いた状態を保つことができていると考えています。こちらについても、いじめ事案と同様に発生時から市教委と学校が連携して再発防止のための対応を行っている結果と考えております。

不登校の人数については、特に小学校で減少しております。組織的な対応を早期から開始し、家庭の協力が得られるよう信頼関係を構築することで新規不登校の発生を未然に防ぐことができたと考えております。中学校は、やや減少となっておりますが、小学校から継続して不登校である生徒も多く、長期化するほど解消が難しい状況が分かります。引き続き、新規不登校の発生を未然に防ぐ取組を進めてまいりたいと考えております。

○中西委員長 報告は終わりましたが、委員の皆さんから御質疑はありませんでしょうか。

○西上副委員長 まず、小学校プール改修工事のプール処分費の比較ということで、資料を出していただきまして、ありがとうございます。その中で、課長の最後のほうのお話の中で、100万円以内に収まっていると、こういうようなことで100万円以内に収まっているということは、100万円以内じゃからええんじゃねえんかなと、こういうような言い方に聞こえたんですけど、我々庶民感情からすれば、84万円から96万円ということでこれだけの金額、税金が使われるということについてはいささか、私らも商売しようりまして、これだけのものを利益を上げよう思うたら大変なことなんですけれども、どうでしょうか。

○大岩教育振興課長 9月の定例会にも比較表をお出ししておりますけれども、FRPプールはステンレスプールよりイニシャルコストが割安に抑えられ、またユニット化されているため施工が容易でランニングコストも割安に抑えられることなどから、その100万円というのは将来的にはペイできる金額であると認識しております。

○西上副委員長 100万円はペイできるということですが、最近ではSDGs、エコという観点からは、やはり再利用して使ったほうがこれからの時代ではよろしいんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

○大岩教育振興課長 いろいろな考えはあると思いますが、FRPにしても改修した後、ガラス材とか溶かした後、セメント材とかにも使用されておりますので、そういったところで再利用はされておりますので、FRPについても、再利用はされておると認識しております。

○中西委員長 ほかにございませんでしょうか。

○森本委員 蕃山のことなんですけれども、つらつら報告をいただきまして、ちょっと書き切れ

なかったこともあるので、再度御質問をするかもしれませんが、御了承ください。

蕃山先生の漫画本についてなんですけれども、総合教育会議のところでも、市長が著作権を譲ってもらおうとかどうのって書いてある部分もあって読ませていただいたんですけども、中江藤樹先生の記念館に行ったときに、あと100冊ぐらい残っていますというて向こうの方もおっしゃっていて、1冊1,000円で購入して帰ってきました。この著作権、先ほども民間のとかというて説明があったんですけど、そこら辺をもう少しちょっとゆっくりと詳しくお話をさせていただけたらと思うんですけど。

○畑下文化振興課長 漫画の制作につきまして、民間の団体の助成が来年度ありまして、今それについて募集がかかっているものに申請しております。それにつきまして、先ほどの中江藤樹記念館にありました、さいわい徹先生が作られました漫画の本が大変読みやすいので、それがそのままというわけにはいかないもので、これに備前市の関わりにクローズアップしたものを少し付け加えて作っていくということで。このときにさいわい徹先生が作られているその著作権関係とかのお話もいろいろ、どうしていいかということをお話している状態ですので、その辺をクリアしてこの漫画の本を作っていくかと思っております。

○森本委員 民間で助成を受けられたらということなんですけど、これ助成を受けられるのはどの部分を助成の申請をされているんですか。

○畑下文化振興課長 この漫画を作って発行するまでの助成です。

○森本委員 先生から著作権とかを購入したりする部分に関してはどうなっているんでしょうか。

○畑下文化振興課長 今、そのあたりを先生とお話させていただいているところです。

○森本委員 話をさせていただくというのは、金額的な部分ですか。

○畑下文化振興課長 著作権等も含めて制作していきますので、そのお話の中で先生とお話をさせていただいている状況です。

来年作るこの漫画製作費の中にその先生との著作権というか、その金額等も含めてその補助をもらってできるような形で制作していこうと思っています。

○森本委員 もし申請が通ってする場合、何冊ぐらい作成される予定とかは決まっていますか。

○畑下文化振興課長 一応この助成の条件として1,000冊以上ということになっておりますので、今のところ4,000冊で申請しております。

○森本委員 絵本と紙芝居は、たくさん応募があってよかったです、一時はどうなることかと思っていたんですけども。まだまだなかなか認知されていない中で、応募をかけるのは私は無謀だなというふうに思いました、正直。やはり認知されてない段階では、緑陽高校とか地元が、中学校によっては美術部がないところもあるんですけど、そういう美術関係のところには依頼して作成してもらうのも一つの手ではあったのではないかなと今は思っています。ただ、応募があったのでよかったですと思いますけれども、今後はやはり慎重に考えていただきたいなと思います。

ど、いかがですか。

○畑下文化振興課長 担当も心配しておりましたが、結果的にはこういうふうな形で幾らか応募があったのでほっとしております。一応こちらとしても絵本作家とかそういう美術の大学、専門学校とかにも一応お願いして、絵本作家とかにもお願いしてとかというような形でお願いはしていったんですが、なかなかやっぱり認知をされていないということだったので、今後につきましても、そういうところには気をつけて事業は進めていきたいと思えます。

○森本委員 ちょっと我が子に関わっていたのであれなんですけど、瀬戸内市の市営バスのラッピングというか絵を描くのに、高校の美術部が、早い話が無償で、それもデジタルでして、本当に美術部の活動の一環として依頼されたこともあったりして、そういうことで学生の子に任せていくっていうのも、学生の子も学んでもいけるし、費用が発生したりとかそういうのも一切なかったんで、やはりそういうことでしっかり活用するところは、よく緑陽高校というお話も委員さんの中で出ることもあるんですけども、そこら辺も考えていくべきではないかなと思いました。人材育成っていうお話も、蕃山先生のことに関してはよく言われるので、そういうふうに思いましたので、お伝えしておきます。

続けて、藤樹の記念館に行かせてもらったときにお話を聞いたら、高島市では、藤樹さんといつて昔から皆さん親しみを込めて、やはり知名度的にも皆さんに浸透をしているっていうお話もありました。ただ、小学生とか中学生の子に寄っていただくとなったら年間、募集をかけて習字の練習をしたりするんでも30人ほどだと言われて、やはり年々減少していつて厳しいっていうお話もあったんです。それで、観光に関しても、近くに道の駅があるので、それがあって来てくださっているっていうようなお話もあったので、まだ教育委員会で場所的なものでどういふふうなお考えか分かりませんが、やはり観光面を外したら人材育成だけではなかなか人を呼び寄せるっていうのは厳しいんじゃないのかなっていうのは、正直言って改めて思いました。記念館を建設する分に関しては反対はいたしませんけど、場所の選定はやはり慎重に慎重を期して決めていただかないことには、藤樹記念館にしても、昔は補助をもらって建てているからあれなんですけど、長年たったら雨漏りもしていくので、今回大きな改修を考えていますというお話もあったので、やはり建てたからにはしっかりと長年もつようなものを建築していただきたいと思えますけど、その点いかがでしょうか。

○畑下文化振興課長 記念館等の建築につきましては、第1回の会議のときの内容でもありましたように、先ほど森本委員さんから言われたような場所等、どういった形でやっていかとかっていうものを慎重に考えていったほうがいいんじゃないかという御意見もいただいておりますので、今後この会議の中でそういうふうな形で進めていきたいと思えます。

○森本委員 中に展示する資料に関しても、たくさんないとやっぱり物足りないなっていうふうなことも言われていましたし、藤樹先生と連携も考えておられるのであれば、それなりの資料数も必要になってくると思うので、当面は市民の方に周知をしていただいて、市民の方がぜひやっ

ていこうという思いに、できたらそういうふうな思いを高めていただいてから検討していただければやはりやりやすいのではないかなと思いました。資料収集とかそういうことにもしっかりと努めていただきたいと思います。これは要望です。

○西上副委員長 関連で、今、熊沢蕃山先生のことが取り上げられ、顕彰問題については非常にええことだと思っておるんですけども、今、岡山市に吉備路文学館というのがあるんですが、ここで9月13日から12月6日まで、「吉備路近代文学の7人展」というのを開催しておるんです。その中には、備前市にゆかり、関係のある正宗白鳥先生、藤原審爾先生そして柴田鍊三郎先生と、3人がその7人の中に名前を連ねておるわけですけども、こういった中で、吉備路文学館で展示されとるということで、地元備前市のほうでもこういった企画を応援するような格好にさせていただきたいと、これを見て私は思っているんですけど、いかがでしょうか。

○畑下文化振興課長 備前市でも、備前市にゆかりのあるこういった方々についてのこういうものについては、今後行っていきたいと思えますし。藤原審爾さんにつきましては、この年度末になりますが、歴史民俗資料館で展示会を開く予定でございます。

○中西委員長 柴田鍊三郎さん、あるいはその正宗白鳥さんについても、これまで加子浦とかで展示はされていると思いますが。

○畑下文化振興課長 はい、正宗白鳥さんにしても、柴田鍊三郎さんにしても、加子浦歴史民俗資料館には展示品はございます。そういった企画展とかはまたいろいろ計画していきたいと思っております。

○西上副委員長 今までもやられたことがあるということですが、今、吉備路文学館でやっておられるということは、今、まさしくこれは旬なわけです。それで、同時にやりやあやっぱり効果が物すごく出てくるということもあるんですけども、備前のほうでもこの吉備路文学館でこういう「近代文学の7人展」ということはPRもされてないですし、なぜPRされて一緒に同時で開催して効果が上がるようなことはされなかったんかというようなことは、どう思いますか。

○畑下文化振興課長 すみません、私のほうの認識というか、情報収集不足で大変申し訳ないと思っております。今後、こういうような企画展等がありましたら、いろいろ取り上げて検討していきたいと思っております。

○西上副委員長 効果が上がるようにこれから十分考えてやっていただきたいと思えます。

○青山委員 先ほどの熊沢蕃山顕彰会議を含めて、今年度は閑谷学校350年、それから熊沢蕃山没後330年ということでいろいろな会を催されておるということで、ほかの文化面、芸術面の方も顕彰していかなければいけないと思うんですけど、何かそういう機会を捉えてもっともっと広めていけたらなと思っております。それから、小学校の3年生、4年生の地域学習というふうなことで、今、もうカリキュラムの中にも取り入れられとるということですので、そういったようなところも利用して、時間はかかると思うんですけど、地道にやっていただきたいと思えます。このことは要望でいいんです。

最後に、いじめ、暴力、不登校のことで報告をしていただいたんですが、先般ちょっと警察署の方とお話することがあって、最近中学校等の生徒の様子はどうですかというようにお聞きしたら、最近は暴力とかそういったようなものがぐっと減少したと、それよりも隠れたいじめとかそういうちょっと陰湿なものが増えているようだ。SNSなんかを使ったいじめとかということになると思うんですけど、ここにいじめは小・中で減少したというふうに言われたんですけど、SNSとかを使ったいじめ、中傷についてはどのような状況になっていますか。

○岩井学校教育課長 いじめの認知件数の中には、パソコンそれから携帯電話、SNS等に関連した誹謗中傷というものも含まれています。件数についてはそれほど多くの件数ではないんですが、やはりそういう事案というのも発生してきていること、それから経年で見たときには、以前は中学校が主な発生だったんですが、だんだんやはりそこは低年齢化というんですか、小学校でも発生しつつあるというような状況が見られます。特にこういうSNS等を使った誹謗中傷に関しては、委員さん言われるとおり、なかなか学校だけでは発見しづらいところもありますので、県の携帯電話等のパトロールの部門であったり、それから警察、また一番多いのはやはり保護者からの訴えというか、保護者からの連絡で発見されるということがあるので、保護者への啓発も含めて学校のほうでは行っていきたいと考えています。先ほど言ったように、やはり小学校にもあるので、小学校のほうでも積極的にそのような啓発活動を進めていきたいと考えております。

○青山委員 今年に限ってはコロナということで、オンラインでのいろんな取組をとということも言わせていただいたんですが、小学校、中学校で、そういう機器をどのように家庭等で扱うような、あるいは学校へ持込みとかというのは、今、現状どうなっておりますでしょうか。

○岩井学校教育課長 それぞれの学校でSNSの利用、インターネットの利用については、教科もしくは総合的な学習の時間等を使いながら啓発、学習ということは進めているところではあります。持込みについては、新聞等の報道によっても中学校への持込みについて報道されることもあるんですが、今、県とも話をしながら、どのような体制でいくかというところを話しているところで、全体の流れとしては今まで、現状と変わらないんですが、基本的には持ち込まないような流れではあるものの、やはり必要に応じて家庭とよく相談をした中で許可をするというような場面も出てくるであろうというような流れでは考えているところです。

○森本委員 図書館の件で、タウンミーティングも考えていると言われたんですけど、結局、流れ的にはいつぐらいになってくるんでしょうか、時期的なものを教えてください。

○竹林社会教育課長 現在、先ほど申し上げました資料作成業務を進めております。こちらのめどが11月末頃までに業者さんにある程度まとめていただく予定としております。そのほかのこちらで準備する資料等も含めてそろいましたらということで、その後、早めには実施できたらと思っております。

○森本委員 早めにとということですけど、本年度中と考えるとよろしいんですか。

○竹林社会教育課長 はい、年度中です。

○中西委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、以上で報告事項を終わります。

報告事項のみの説明員の方におかれましては、御苦労さまでした。御退出いただいて結構でございます。

***** 閉会中の継続調査事件 *****

次に、閉会中の継続調査事件に移ります。

教育行政についての調査研究を行います。

西上副委員長から事前に質問通告がなされているとのことで、改めて御質問をいただきますようお願いします。

○西上副委員長 事前に通告したことを一問一答で1つずつ質問させていただこうかと思いません。

4校統合を決める前に児童・生徒数の推移調査のほかに通学方法や住民意識調査、また児童・生徒の意向調査等を行われたでしょうか。

○大岩教育振興課長 児童・生徒の意向調査は行っておりませんが、平成30年2月から3月に校長への小規模化への聞き取りと、あと4月にPTA役員、小規模化している西鶴支所、東鶴支所、三石支所、伊里中、三石中、日生中、吉永中のPTAの方にそういった小規模に関する聞き取り調査を行っております。それから、30年6月から7月に中学校を卒業いたしました備前市の高校生、和気閑谷高校と緑陽に通つとられる生徒さんに中学校の小規模化についての聞き取りを行っております。

○西上副委員長 PTAの方にはされたと、小学生、中学生、学生の方にはされていないということで、何でされなかったのかというのが一つ疑問があるんですけど、その辺のことを十分調査しておれば、日生地区の反対等が事前に分かったのではないかと、また防げれたのではないかと、ここまで混乱は招かなかったんじゃないかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

○大岩教育振興課長 その当時は、4校統廃合案はその年の9月に意見交換会で示した案ではございますが、PTA役員の方とか校長先生に聞いたのは、4校統廃合案についてではなくて、小規模化する小学校、中学校に対する考えをお聞きしたものであります。そういったことを聞いて、その当時4校統廃合案ということで意見交換会を開いていきました。生徒の意向調査はしてないんですが、その当時はする必要はないと考えておりました。義務教育を受けさせる責任は保護者ということで、児童には意見調査はしてありません。

○西上副委員長 4校統廃合案のときには必要はないということで、ああ、子供には必要ないと言うたんか、4校統廃合案のときにはされていないということで、4校統廃合案のときにされておればと思うんですけども、何でなんでしょうか。

○大岩教育振興課長 4校統合案につきましては、9月にその案というんですか、これで地区、保護者と意見交換会をしてみたいということなので議会には報告させていただいております。それで、保護者2回、各地区、4中学校区2回、それから地区住民の方に1回、それぞれ3回ずつ意見交換をしておりますので、延べ人数、あと小規模な要望にお応えした意見交換も行いまして、延べ1,000人ぐらいの参加者の中で、4校統合案については意見を伺いました。

○西上副委員長 1,000人ぐらいの方に伺ったということで、そのときの反応というのはどうだったんですかね、いま一度お伺いしたいんですが。

○大岩教育振興課長 いろいろな御意見をいただきましたけども、4校統合案については、日生地区で大きな反対運動、署名運動、それから吉永地区では、通学時間が片道で1時間20分ぐらいかかるということで、あと地区の方からも4校統合案については反対の意見がございまして、それを基に2校統合案に、教育委員会としては反対を押し切ってまで4校統合案は進められないということで、今の2校統合の計画を進めているところでございます。

○森本委員 ちょっと三石の保護者の方からお聞きしたのは、4校統合案を出す前に、日生地区とかにちょっと少しでも話を持っていかれていたら、反対っていうのが、ここまですごい反対になるのを想定されていた方もいらっしゃいましたので、4校いきなり出すのであれば、やはり各地区にある程度の事前調査をされるべきではなかったのではないかと。出すからには、やはり教育委員会の意思として、必ずこの4校統合案を成し遂げるといような強い意識でやってもらえるもんだというふうなお話も三石の保護者の中では言われている方もいらっしゃるんですけど、その辺、教育委員会ではそういう話とかはなかったんですかね。事前に日生とか吉永の通学距離に関しても分かっている話だったと思うので、そこら辺の話は出なかったんですか。

○大岩教育振興課長 はい、その当時は事前にそういったアンケートであるとか、そういった聞き取りは結果的にはしてなかったんですけど、教育委員会が実施計画案では4校統合案はあくまで意見交換会のたたき台として出した案でございますので、そういったところで教育委員会としては複数学級のメリットを出して意見交換を行っていったんですけど、結局は通学路の問題であるとか、デメリットのほうが大きいと考えられる方がかなりの方おられまして、結局は4校統合の意見交換会の経過の中で、廃案となったところでございます。

○森本委員 たたき台ということをおっしゃられたんですけど、新聞にあれだけ大々的に載ったのでやっぱり反応はされて当然だと思うんです。ということは、教育委員会は最初から4校統合案はあくまでも案であって、最終的目的は、やはり三石と吉永の統合がなし得たらよかったという考え方と捉えてよろしいんですか。

○大岩教育振興課長 その当時はそういったことは全く考えておりませんでした。中学校の小規模化に対する、あくまでその解消に向けての意見交換会ということで考えておりました。ただ、三石中学校につきましては、23年度の実施計画、統廃合の計画の中でも名前は出ておったんですけども、それ以上に残りの日生中学校、伊里中学校、吉永中学校の生徒数の減少がかなり進ん

でいたということで、4校統合案ということで意見交換会を行った次第でございます。

○森本委員 お話を聞いてたら、やはり三石のほうは、一部の保護者の方ですよ、やはり早く統合して吉永へ行く話を進めてほしいって賛成の方はそういう御意見なんですけど、反対というか、全く統合に反対とは言われてないんですけれども、やっぱり教育委員会のそういう最初に4校をぱっと出すやり方がちょっとおかしいのではないかなって御意見のところ、その後の対応とかで素直にその統合を、はい、賛成ですと言えないなっていう御意見も聞いたりして、逆に賛成されている方がどうすれば賛成してもらえますかみたいなことを言われている場面にも出くわしたこともあったんですけれども。その辺を踏まえて、過去のことなんですけれども、やり方がやっぱり最初からちょっと間違っていたのではないかなということも言われる保護者の方もいらっしゃるんですけど、その点いかがですか。

○大岩教育振興課長 2校統合案は、昨年の9月に実施計画案をお出ししたんですけど、その後、2校統合案の説明会を4回、4地区、前回4校統合案をした同じ地区に1回ずつ4回行いました。4校がなくなった理由と、今後2校統合案で進めていくということで実施計画案を説明してまいりました。そういった中で、三石小学校の保護者の方が、実際その統合については三石地区の方は反対ではないんだという認識はあったんですけど、ただ2校統合案になったときに、ほかの保護者の方がどういった考えでおられるのか分からないということで、PTAが独自にアンケート調査を行いました。それが、2月に結果報告を受けたんですけど、2校統合案の是非、反対ですか、賛成ですかという、の数が25対24ということで、拮抗していた結果があります。その後、コロナ禍の中、大きな集会、PTA総会とかはできなかったので、4回に分けてまた意見交換会をPTAのほうからしてくださいということで伺いましたので、PTAの方が4地区、4回に分けて意見交換会の場を設定していただきました。その中で、教育委員会としては反対の方の意見もお聞きしたいということで4回、5月から6月にかけて行って、今、さっき言いました要点録を作りまして、それを小学校の保護者の方にお配りして、この出た意見を基に教育委員会会議にかけさせていただきますということで、7月の教育委員会会議のときにその要点録をお出ししました。反対の方の意見は、私たちの意見が届きますようにということで要点録を作らせていただきましたので、保護者の方のその意見につきましては網羅されているものと思っておりますし、その要点録について、ここが抜けてあるであるとかそういった問合せは一切なかったのが事実でございます。

○西上副委員長 4校統合案のところに戻るんですけども、課長は今、デメリットが通学の問題じゃとか署名運動だとかというようなことを言われましたけど、その時点で教育委員会はそのデメリット解消に向けてどのような討議というんか、教育委員会の中でお話しされたのか、その辺お伺いしたいんですけど。

○大岩教育振興課長 デメリットにつきましては、今の2校統合案の中にも解消する学校環境の整備、例えばICTを使って遠隔で生徒同士がやるであるとか、ただその中でも解消に向けては

しているんですけど、やはり通学時間の問題はなかなか解消できないと。往復で3時間かかる通学時間を減少させることはできないということで、最終的にはそれが解消できなかったことと、日生地区の反対運動が大きかったということで、これで進めても運営上大きく支障を来すということで2校統合案に見直したところでございます。

○西上副委員長 解消できなかったことが何点かあるということで、通学時間のことは三国のことじゃないかなと思うんですけども、三国地区は地理的にもう和気に行ったほうが近いかなと思うんですけども、和気教育委員会とそういう協議はされちゃあおらんのでしょうか。

○大岩教育振興課長 はい、しておりません。

○西上副委員長 和気の中学校に行くというようなことについても、考えはなかったのでしょうか。

○大岩教育振興課長 その当時は、和気の中学校、組合というんですか、そういったことの協議は、そのときの意見交換会では、もし4校統合案を進めて伊里地区の中学校に行くのであれば和気に行ったほうがいいんだというような意見がありましたので、事実そう言われたので、伊里を廃止して和気に行くというような考えは教育委員会はその当時は持っておりませんでした。

○西上副委員長 持っておりません。

○大岩教育振興課長 吉永中学校の生徒を、和気に中学校の組合をつくって行かせるというような考えはありませんでした。協議もしていません。

○西上副委員長 PTAの方の意見があったと今おっしゃっておられましたけど、課長、あった時点で考えていかにゃいけないのじゃねえかなと思うんですけど、何で考えのでしょうか。

○大岩教育振興課長 それは、4校統合案に反対の意見の方が述べられたので、その方は吉永中学校でいいというような反対の意見の方だったんで、もし4校になるんだったら和気をとという考えでございます。

○西上副委員長 分かりました。

○青山委員 先ほどのデメリットの話なんですけど、例えば通学の問題ですが、三国、それからもっと奥の飯掛とか、例えばもうあそこの生徒だけ乗合タクシーのような形で直に送り迎えをするというふうなことをすれば、どのくらいで行かれるかというのは調べられましたか。

○大岩教育振興課長 停留所に止まる時間を考えましても、片道1時間以上はかかるということで試算しております。

○青山委員 私は自分で伊里中学校から計ってみました。50分で行けます。もちろん法定速度で行って、途中で止まらなかったら。そのようなことをやっぱりそれぞれの反対の意見のあったところで説明というんですか、説いていっていただきたかったな。私も、最初の9月からの12回全てに出させていただいたんですけど、あのときは意見聴取というふうな形で、それぞれの意見に対してこういう方法もある、これではどうですかというふうなことはなかったと思うんです。その後、それをやられるというふうな、やって実施計画ができるものだと思っていたんです。

けど、やられていないようです。やっぱりそういう努力を、デメリットに対してそれを解消するような方法を考えたり、それで説得をするような努力をしていってほしかったなと思いますけど、もうこれは過去の話になるんかもしれないですけど。2校統合についても、いろんな意見があると思うんですけど、それぞれのそういう意見に対して、こういう方法でやれますとか考えていますということは説明はされていますか。

○大岩教育振興課長 はい、2校統合案につきましては、三石中学校区の保護者の方に何回も意見交換会を出す前にもしておりますし、出た後にも意見聴取のほうはさせていただいたところでございます。

○青山委員 やっぱりそういう取組を地道にやっていかないと、意見は言いたい放題言われると思うんですけど、それに対して納得のいく説明とか方法を積み重ねていっていただきたいなと思いますが、今後そういう予定はありますか。

○大岩教育振興課長 はい、今、2校統合案の計画を進めていくということで進んでおります。お手元の資料にも印刷させていただいております、統合準備委員会の立ち上げについて、お手元の資料の役員の割当て表というんですか、そちらのほうは既に保護者、三石の小・中、吉永の小・中、教職員、あと地区の2名の方は全て推薦をいただいておりますので、今、統合に向けて進んで、これから準備委員会を立ち上げて進めていく計画でございます。今後協議の中で、そういったことについては意見を聞きながら統合に向けて準備を進めていくようには考えております。

○青山委員 2校のほうはこういう形で進んでいるんだなと認識しますが、伊里中学校区の問題なんですけど、伊里の小学校、中学校の保護者から、伊里のほうもどこかへ統合するとかというふうなことを考えてほしいという要望が出ると思うんですけど、これは今、どうなっていますか。

○大岩教育振興課長 伊里の有志の方と言われておるんですけど、有志の方にせんだって備前中への統合を希望される要望のほうをいただきました。こちらは、その有志の方ということで、まだ伊里中学校区の保護者の方の意見とか、その考え方、方向性がまだ見えない段階なんで、そういったことでそういった要望書を受け取らせていただいているんですけども、今後、その動きを注視していくということで御回答させていただいております。

○青山委員 どういう状況になったら、要望を聞いたり、意見を聞いていただくとか、そういう会を持ったりというふうなことができるんですか。

○大岩教育振興課長 そういった地区、保護者の方の盛り上がり言うたら悪いんですけど、過半数の賛成があるからとかというんでなくて、そういった、今もその有志の方が立ち上げとられるその会の今後の運動であるとかそういったことを注視しながら、これは伊里の方がそのくらい思っているんだなということがあれば、そういったところから検討していくということにはなろうかと思います。

○青山委員 何か釈然としないんですけれど、というのが、基準というのが分からないんで。例えば地区というと、区長会とかそういったようなところからの要望、あるいは保護者というと、P T Aの役員会とかそういったところの要望とか、そういうふうな何か明快な基準というのはいですか。

○大岩教育振興課長 その有志の方が持ってこられたときにも、実際何人あれば動いていただけるんですかということをおっしゃったんですけれども、今の段階では何人であるとかそういったところは教育委員会としては申し上げられないということで回答をさせていただいております。ただ、伊里中学校につきましては、日生中学校と、今度新しくできる吉永中学校と同じ規模の大体120人ぐらいですかね、同じ規模の中学校になりますんで、今、教育委員会が進めている計画の中では同じ規模ということでは申し上げております。その中で、もう伊里中学校の保護者の方がどうしてもということでその機運が高まれば、そういったところで教育委員会としてはその意見は真摯に受け止めさせていただくということでは御回答させていただいております。

○中西委員長 ちょっとごめんなさい、西上さん、そして森本さんの質問項目がまだ残っているので、それを先にさせていただきませんか。

○西上副委員長 準備委員会を募集したということで、今度は準備委員会のメンバー、人数、構成はどのようになっていますかという問いに、この資料を出していただいておりますけれども、この資料の御説明をしていただきたいと思っております。

○大岩教育振興課長 7月の末の教育委員会会議で2校統合案から正式な計画になりましたので、統合準備委員会につきまして三石小P T A、三石中P T A、吉永小P T A、吉永中P T Aの方に統合準備委員会の協議内容について、あらかじめこういった感じで教育委員会は考えておりますということでお示ししまして、協議内容についてもある程度このくらいのことは必要ではないかということでお示しして、それでP T A会長さんのほうから推薦をいただきまして、この割当て表、例えば三石小学校の一番左です、三石小の「教」と書いているのは教職員です、教職員が学校部会に2人入ります、総務部会に1人入ります、P T A部会に1人入ります、記念部会に1人入りますというような感じで、ある程度部会のほうを決めさせていただきまして、それに基づいて推薦をいただいているところでございます。

○西上副委員長 この中で三石区長会が斜線を引かれておるんですけれども、これはどういうことなんでしょうか。

○大岩教育振興課長 学校部会につきましては、区長会が協議する内容ではございませんので、斜線が入っております。あと、総務部会につきましても、P T A部会についてもそのような感じですか。記念部会につきましては、記念行事であるとか伝統の保存であるとかということで、記念部会に区長会から2名の推薦をいただいております。こちらにつきましても、10月6日の区長会の会合に出向かせていただいて説明させていただいて、昨日、この2名の方の推薦を総区長様からいただいたところでございます。

○西上副委員長 分かりました、ありがとうございます。この会の主導というのはどちらがリーダーでやっていかれるんですか。

○大岩教育振興課長 統合準備委員会がありますので、その統合準備委員会が組織上は上になります。その下に幹事会、協議を調整するであるとか、属さない事項が発生した場合に調整するのが幹事会であります。部会につきましては、一緒に会合する場合もあるかと思えますし、ない場合もあるかと思えますので、部会でそれぞれ動いていただくと。部会につきましては、部会長を立ち上げの段階でどなたかに決めていただく、それから統合準備委員会も、委員長、副委員長を決めていただくような感じでは考えております。

○西上副委員長 三石の方にちょっとお伺いしたところ、この準備委員会の割当てというんか、メンバーを構成するのに、三石の教員の方が主導で、三石の教員が募っておったというように聞いたんですけど、教育委員会がもっとやるべきじゃねえんかなと僕は思ったんですけど、いかがでしょうか。

○大岩教育振興課長 ちょっと言っていることがよく分からないんですけど、例えばPTAの運営上では教頭先生が一番関わっておられるので、教頭先生が推薦、PTAの会長さんとかと相談しながらやっていたのかなと思えますけど、教員の方が主導というのは、推薦の場合はちょっと考えられないと思うんですけど。

○西上副委員長 教員がということじゃないということなんですけど、この部会を招集するのに当たり、教育委員会はどのように募集を持ちかけたのか。今のお話によると、教頭先生に募集を持ちかけたんですか。

○大岩教育振興課長 各小・中学校の校長先生に推薦をいただきました。それから、PTA会長さんに推薦をしてくださいということで、それぞれのPTA会長さんに推薦していただくようなことでお願いさせていただきました。

○西上副委員長 次に、三石中学校、吉永中学校の2校統合案への見直し理由を何点か上げていますが、保護者に対して統合先の希望調査等の意見調整を十分に行われましたかって、先ほどもう少しちょっと触れましたけど、いま一度お願いしたいと思います。

○大岩教育振興課長 4校統合案の見直しの段階で、31年3月に三石認定こども園の保護者の方20名、3月6日に三石支所PTAの常任委員会の方30名、4月18日に三石支所PTA常任委員会に15名、それから31年4月26日に三石支所PTA総会50名、それから31年3月25日に地区座談会で40名の方が参加されまして、それぞれ2校統合案を提示する前に、ど

○西上副委員長 意見聴取の結果はどんなようなものだったのでしょうか、いま一度お願いします。

○大岩教育振興課長 その中では、例えば2校統合案になったときに、再度の統廃合があるのではないかであるとか、あとやはり4校がいいであるとか、クラス替えがないというような考えであるとか、あと組合せについて伊里も含めてというようなことは申し上げられておりました。

○西上副委員長 三石小学校の保護者へ、今回初めて懇談会要点録が配付されているようですが、これで保護者からの質問等には全て回答されておられますか、またこれ以外の質問はなかったのでしょうか、お願いいたします。

○大岩教育振興課長 要点録の配付につきましては、御意見があれば申し述べてくださるということで、文書もつけておりましたので、そちらについては一切その要点録についての不足部分であるとかという問合せはございませんでした。

○西上副委員長 要点録を持ち帰ると言っていて、後で回答がないと、こういうこともちょっと聞いたんですけれども、次の説明会において同じ答弁を繰り返すのみじゃというようなお話を聞いたんですが、それでやっと要点録が出てきたということですが、いかがなんでしょうか。

○大岩教育振興課長 要点録につきましては、反対意見を聞くということで行わせていただいたんですけれども、その中で保護者の方から、私たちの意見が伝わってないんじゃないかということで、それを文書でQ&A方式で作ってくださるということでお伺いしましたので、それに基づいて要点録を作成させていただきました。

○西上副委員長 通学方法件なんですけれども、三石で具体的な説明をされたんでしょうか、。

○大岩教育振興課長 通学方法につきましては、基本的にはスクールバスということで説明をさせていただいております。あと、部活動が、もし朝連とかがあるんでしたら、そちらも現在の吉永中学校の朝2便、午後2便ということでさせていただくと説明させていただいております。

○西上副委員長 部活動の話が出たんですけれども、三石さんが学年が10人、吉永さんが20人ぐらいで、20人と10人足したら30人なんですけれども、これでもうクラス替えはない状態ですけども、部活動において野球とかサッカーとか複数でやるチーム競技ですね、チーム競技が30になったからというて、ほんならできるかなというようなことになるんですけれども、その点については、どうお考えでしょうか。

○大岩教育振興課長 例えば野球部であるとか、吉永中はサッカー部はあるんですけど、野球部は、今はどちらかといえばクラブチームのほうに行くような方もたくさんおられると聞いております。今、どちらの中学校につきましても、生徒さんの減少でなかなか部活動の種類、先生の配置、指導者ということで問題を抱えとるのは承知はしております。ただ、統合したからといって、部活動の数が増えるであるとかというところはなかなか難しいんですけど、三石中学校の方からしたら、今の部活動よりは数は増えるということで、三石中学校の生徒さんについてはある程度よいことがあるんじゃないかということでは考えております。

○西上副委員長 統合準備委員会の表を見ても、この中に三石、吉永こども園が入ってないんですね。それから、三石、吉永こども園の保護者への説明会を行ったと聞いていますが、それはいつ頃、現在まで何回行われたのか。

○大岩教育振興課長 三石のこども園につきましては、平成31年3月2日、こちら20名の方が参加されました。それから、令和2年5月9日、保護者役員の方6名の方が参加されました。

あと、保護者と地区の説明会ということで1回させていただいておりますので、今、参加される方はそちらのほうも参加できますので、大体3回開いております。吉永のこども園につきましては、吉永こども園単独の説明会は行っておりませんが、令和元年10月3日の吉永中学校区の2校統合案の説明のときに、そちらで参加されているかどうか分かりませんが、そういった会議は持たさせていただいております。

○西上副委員長 準備委員会のほうでこども園が入っていない理由は。

○大岩教育振興課長 中学校の統合なので、こども園の方が将来、今、子供さんが小さい中で、なかなか自分の子供さんが中学校になったときの想像というんですか、その統合についてはある程度は三石のこども園の保護者の方は意見をお聞きしとんですけども、この準備委員会の役員の中にはこども園の方は、やはり小学校と中学校、将来中学校になる小学校の方のほうイメージができるということで、小学校、中学校の方で統合準備委員会の組織に入っただくということで決めさせていただきました。

あとこども園の方から、このまま準備委員会に入っただくということは教育委員会は考えておりません。

○西上副委員長 教育委員会は、こども園の方がこの準備委員会には入っただくことは考えてないと言われましたけれども、地元から、こども園の方も入れてくれというようなことはなかったのでしょうか。

○大岩教育振興課長 それはお聞きしておりません。ただ、こども園の方も、三石のこども園の方の統合についての意見は、今年の5月9日のこども園の保護者の方の意見聴取のときには、統合についての反対はございませんでした。前向きな通学の方法であるとか、将来的な部活動のことであるとか、あとそういった前向きな質問のほうが多かったように記憶しております。

○森本委員 三石の区長会の皆さんが、4校の案のときには保護者の意見を尊重するというようなこともお聞きしていますというような御意見も、説明でたしかあったと思うんですけども、この2校案の分に関しては、どのような反応をいただいているのか教えていただきたいと思うんです。先日も、ちょっと手に入れたんですけど、10月15日付で教育委員会から三石地区の皆様へというような回覧が回されていたと思うんですけども、その点も踏まえてお願いしたいと思うんですけども。

○大岩教育振興課長 2校統合案の案をお示した平成31年9月27日の意見交換会のときに、区長さんのほうから保護者の意見を十分聞き取って区会に持ってきてくださいということでお聞きしましたので、そういったところから保護者の意見を聞き取ることはしてきたつもりなんですけども、最終的にはその是非については25対24ですか、そういった拮抗した結果ではありましたが、その後も保護者の意見、反対意見を聞き取ってきたつもりではございます。10月15日の回覧文につきましては、10月6日の区長会で、統廃合準備委員会の立ち上げについてお願いをしたところなんですけども、そういった中で地区の住民の方はまだ経緯が分かってない

方もおられるんだということで、何かその経緯的なものを回覧板で回したいので作っていただけないかということで、回覧板を作成させていただいて、109班でしたかね、そちらのほうで回覧板を配布させていただいているところです。

○森本委員 三石の保護者の方のお話では、やはり地元の方は統廃合の話さえも知らない方もいらっしゃるし、なかなか話をしても、一からまた説明し直すような場面も多かったのも、教育委員会が地元に対してどこまで説明をされているのかと不審な声もありました。それで、区長会としっかり連携が取れて、地区の皆さんに、保護者以外の方に、やはり十分な説明を事前にもっともっとしておくべきではなかったのかなというふうな思いもありますが、その点いかがですか。

○大岩教育振興課長 住民の方にはなかなか説明ができなかった面もありますけども、意見交換会をした場合も、夜遅い、7時とかだったらなかなか出てこれないかもしれませんし、実際お孫さんとかがあれば興味があって出てこられる方もおられましょけど、なかなか住民の方が出てこれなかったというのは、こちらのやり方にもちょっと問題があったかもしれませんが、区長会のほうで言われた、保護者の意見をまず第一に聞き取って、それを区会に持っていくということにまず専念いたしましたので、保護者の方を優先させていただいたところでございます。

○森本委員 今までいろんな関連の質問があったりして、回答していただいている部分もありますので、これが最後です。

小学校のPTAが独自にアンケートを実施したわけなんですけれども、保護者の方がいろんな委員会の議事録を読まれたときに、何か教育委員会が主体でアンケートをしたような雰囲気になれるみたいなお話もあつたりしたんですけれども、課長さんはPTAのアンケートと言われているので、認識はされているので大丈夫かと思うんですけど。こども園とか中学校へのアンケートも取ってほしいという要望も出したんだってお話も聞いたんですけど、教育委員会は、アンケートはこども園も中学校のも取っていないという回答をされたんでしょうか。

○大岩教育振興課長 教育委員会は、統合についてのアンケートは、その当時から取らないということで回答させていただいております。あくまで、対面での意見交換ということで、アンケートは実施しないということで前から言っております。

○森本委員 最後に、そしたら中学校、こども園の保護者の要望を取りまとめるに関しては、PTAにもう全てお任せということで、意見聴取としては、多分PTAの方、役員さんを通じてになると思うんですけども、そういう方々から中学校、こども園の総意じゃないですけども、そういうふうな形で意見がまとまっていると、受け止められているということでよろしいんですか。

○大岩教育振興課長 そのPTAの会長さんが取られたアンケートなんですけど、実際は2回取られていると思います。ちょっと忘れたんですけど、1回目が昨年11月ぐらいでしたかね、12月かもしれません、取っていただいて、そのときは2校統合案ではなくって、統合について

どう思われますかということで、その組合せであるとか、統合には賛成であるけど、その組合せがここここがいいであるとかそういったアンケートを1回目取られております。その中には、なかなか集約されて、いろいろな考えがアンケートの結果で出ておりましたんで、そこでは実際分からなかったというのがあります。それで、今年になりまして、やはりPTA会長さんが実際保護者の方ほどのように思われているのか不安に感じられまして、今度は2校統合案について賛成か反対かということでアンケートを取ったのが、その25対24ということで、そちらを持ってこられました。ただ、そのときには、私どもは会えてなかったんで内容をお聞きできなかったんで、その後、PTAの役員会であるとかにお伺いして、そのアンケートの結果の内容について反対の方の意見を聞いていくということで、2校統合案についての御理解をいただくような形では進めてまいりました。

○中西委員長 これでも漏れがないですね。

○西上副委員長 はい、よろしいです、はい。

○青山委員 伊里の問題が途中切れだったんですけど、最初に4校を出されたときに、学級数であるとか、それからクラスの人数であるとかということを出されて、やはり子供の教育環境としてどうかというふうなことである程度説得力があったと思うんですけど、そのような何か明快な、こうだから今はできないんだとかというふうな基準というのを出されていますかね。

○大岩教育振興課長 確かに4校のときにはクラス替えもありますし、伊里の校舎であれば、4校が集まっても活用できる、キャパはあるということで、教育委員会がこの形でということで意見交換会をしていったんですけども、やはりその中ではもう伊里に行くことに対して反対意見、日生、吉永は特に大きな反対意見の声がありました。中には賛成の方もおられたんでしょうけど、声的には反対意見の方が多くありました。そういった中で、4校は実際には進めていけないだろうと教育委員会は判断しました。ただ、三石中学校につきましては、現在やはり将来的推移を見ますと10人前後、今年の1年生は7人で、2、3年生が11人ということで、29人になっております。そういった中で、三石中学校につきましては、やはり学校運営上、学校の効果がないということで教育委員会は判断いたしまして、三石中学校区につきましては、やはり統合はしていくべきではないかということで2校統合案を出したところなんです。先ほど申し上げましたように、日生中学校、吉永中学校、新しい吉永中学校というんですか、三石と統合された吉永中学校、伊里中学校につきましては同じような人数になってきますんで、今の教育委員会の計画では複数学級は将来的には見込めないかもしれませんが、適正学級というんですか、20人から30人の学級人数は維持できるということで、将来的にこれが例えば10人前後になるであるとか、10人前後が何年も続くであるとかということときには改めて統合の計画というか、将来的には考えていくということでは考えております。今の段階では、複数学級は見込めませんが、適正規模の学級の人数はあるということで、こちらのほうで進めていくということで教育委員会のほうは計画を立てております。

○立川委員 黙っとうと思おうたんですけど、やっぱ腹立ってきてね、先ほど大岩課長が言われました、三石は学習効果が得られないと、課長、どうなんですか、学習効果が上がってないんですか、現状はどうでしょうか、教えてください。

○岩井学校教育課長 学習効果が上がらない、もう完全にゼロであるということはないと思います。ただ、より高いところを目指すのであれば、より大きな規模でというようところが考えられているところじゃないかなと考えています。

○立川委員 より高いというのはどのレベルを指すんですか。今の備前中のレベルを指すんですか、岡山の操山中のレベルを指すんですか。

○岩井学校教育課長 ほかの学校のこのレベルでとか、この点数でというわけではなく、やはりそれが成長につながるものじゃないかなと考えておりますので、去年よりは今年、今年よりは来年ということではないでしょうか。

○立川委員 それが得られないということで、課長は先ほど答弁されたんです。非常にづらいお話なんですけど、一応お伝えをしておきますが、対処や対応、いろんな答弁に一貫性が感じられないんですよ。先ほど青山委員が言われましたように、伊里がどうですかと。伊里は当初どういう返事をされたか覚えていますか。地区の総意であれば考えますとおっしゃったと思いますよ。今日は答弁が違ってましたよね。だから、一貫性が感じられないんです。これお願いですわ、先ほど課長がおっしゃったように、三石がアンケートを取って、アンケートを取っただけじゃないと思います、賛成の方の理由、反対の方の理由、どちらとも言えない理由、もう一度しっかりお読みいただいて御検討、紙を頂きたいと思います。これをお願いします。

最後に1点だけ、部長にお尋ねしときます。

乱暴な確認ですが、現状これで進んでいますが、4月、市長選挙もございます。市長が統合はやめやと言われたら、教育委員会はどう対応されるんか、参考までに教えてください。

○田原教育部長 教育委員会としては、この計画を進めるということでお伝えをしまります。

○立川委員 市長がやめろと言われても、教育委員会はやりますということによろしいですね。

○田原教育部長 今の段階で市長がやめろというようなことをおっしゃるというふうに考えておりません。

○立川委員 いや、今の市長じゃないですよ。選挙でもしほかの市長がなられてというお話をしたんですよ。今の市長がやめろという、考えを翻すということではないです。

○田原教育部長 仮定のお話にはお答えしかねます。

○立川委員 教育委員会は自信を持ってそこまで、いや、絶対にやるんですというお返事はできないんでしょうか。

○田原教育部長 教育委員会としては、教育委員会会議で決めておりますので、これで進めたいと考えております。

○中西委員長 よろしいですか。

○立川委員 はい。

○中西委員長 それでは、以上で教育行政についての調査研究を終わります。

以上で本日の厚生文教委員会を閉会いたします。

午後0時15分 閉会